

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-60	実施計画番号	75	事業開始年度	
事務事業名	十和田湖診療所事業			事業終了年度	
担当課名	十和田湖診療所			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	十和田市立診療所条例 第2条	関連事務事業			
背景や経緯等	へき地診療所の役割である地域住民の医療の確保と観光客への医療の提供のため、機器の更新等を計画的に実施し、安定的な診療体制の継続を図る。また、事業所健診等を積極的に受け入れ、医業収益の向上を目指す。				
事務事業の目的	地域住民や観光客が安心して受診できる診療体制の充実を図る。				
実施状況	常勤医師及び看護師の配置により、平日月曜から金曜日に診療を行なっている。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	3	3	3
	活動日数(日)	243	243	243
	人件費(千円)	33,824	34,323	32,917
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		64,247	62,213	64,578

【指標】

活動指標	活動指標名①		診療日数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			日	243	243	243
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		患者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	3,650	3,650	3,650
			目標値	3,650	3,650	3,650
			実績値	4,122	4,300	
			達成度(%)	113%	118%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">十和田湖畔地区から最寄りの医療機関(大湯リハビリ病院)までは、約25kmの距離があり、地域住民及び観光客の医療の確保のためには、事業の妥当性は十分にあると考えられる。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	十和田湖畔地区から最寄りの医療機関(大湯リハビリ病院)までは、約25kmの距離があり、地域住民及び観光客の医療の確保のためには、事業の妥当性は十分にあると考えられる。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
十和田湖畔地区から最寄りの医療機関(大湯リハビリ病院)までは、約25kmの距離があり、地域住民及び観光客の医療の確保のためには、事業の妥当性は十分にあると考えられる。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平成22年度から医師が常勤配置となり平日の月曜日から金曜日に診療を行なっている。また、医療機器等の整備・更新を行うことなど、医療提供体制の充実を図ったこと等により、患者数は増加傾向にある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	平成22年度から医師が常勤配置となり平日の月曜日から金曜日に診療を行なっている。また、医療機器等の整備・更新を行うことなど、医療提供体制の充実を図ったこと等により、患者数は増加傾向にある。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	平成22年度から医師が常勤配置となり平日の月曜日から金曜日に診療を行なっている。また、医療機器等の整備・更新を行うことなど、医療提供体制の充実を図ったこと等により、患者数は増加傾向にある。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">診療所の体制は、医師1人(正職員)、看護師1人(任期付職員)、医療事務員1人(委託)の3人体制で運営しており、効率的に実施していると考えられる。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	診療所の体制は、医師1人(正職員)、看護師1人(任期付職員)、医療事務員1人(委託)の3人体制で運営しており、効率的に実施していると考えられる。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	診療所の体制は、医師1人(正職員)、看護師1人(任期付職員)、医療事務員1人(委託)の3人体制で運営しており、効率的に実施していると考えられる。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">診療報酬点数等に基づき実施しているため、受益の偏りはないと思われる。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	診療報酬点数等に基づき実施しているため、受益の偏りはないと思われる。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
診療報酬点数等に基づき実施しているため、受益の偏りはないと思われる。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

へき地診療所の役割である地域住民の医療の確保と観光客への医療の提供のため、安定的な診療体制の継続する必要がある。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

へき地診療所としての医療ニーズを確認し対応するとともに、事業所健診等を積極的に受け入れるなど、医療収益の向上を目指す。